

主体的・協働的に授業改善を 推進する体制づくり

ー AARサイクルを活用した授業UDの課題別チーム学習を通して ー

- I 題目設定の理由**
- II 研究の基本的な考え方**
- III 取組の実際**
- IV 取組の分析と考察**
- V 研究のまとめ**

I 題目設定の理由

- ・子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすること
- ・多様な個性・特性を有する全ての子供に資質・能力を育成する上で子供一人一人を見取り、適切な指導や関わりを行う教師の指導性はより積極的かつ高度なものが求められる

文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」(令和6年)

特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト

県内の小中学校等をプロジェクト校に指定し、児童生徒の「個別最適な学び」の実現に向け、特別支援学級の指導の充実を図るとともに、通常の学級を含む学校全体で、特別支援教育の考え方を生かした授業改善に取り組んでいる。

広島県教育委員会HP「ホットライン教育ひろしま」

 **授業の
ユニバーサル
デザイン
(授業UD)**

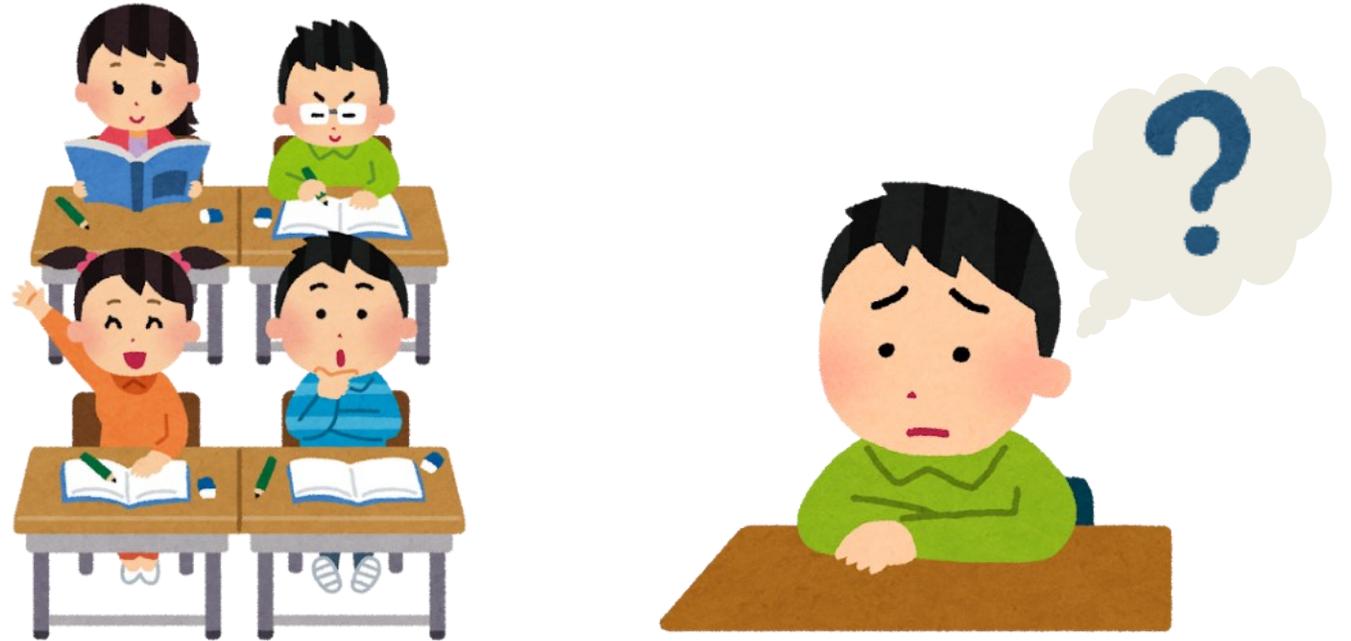
I 題目設定の理由

所属校の現状と課題（児童）

学習意欲や理解度に個人差

学力定着に課題

- ・全国学力・学習状況調査
- ・単元末テスト



研究主題

「主体的に学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成
一個を大切にしたい支援の工夫と豊かなかわりを通して」

所属校の現状と課題（教員）



授業改善に前向き

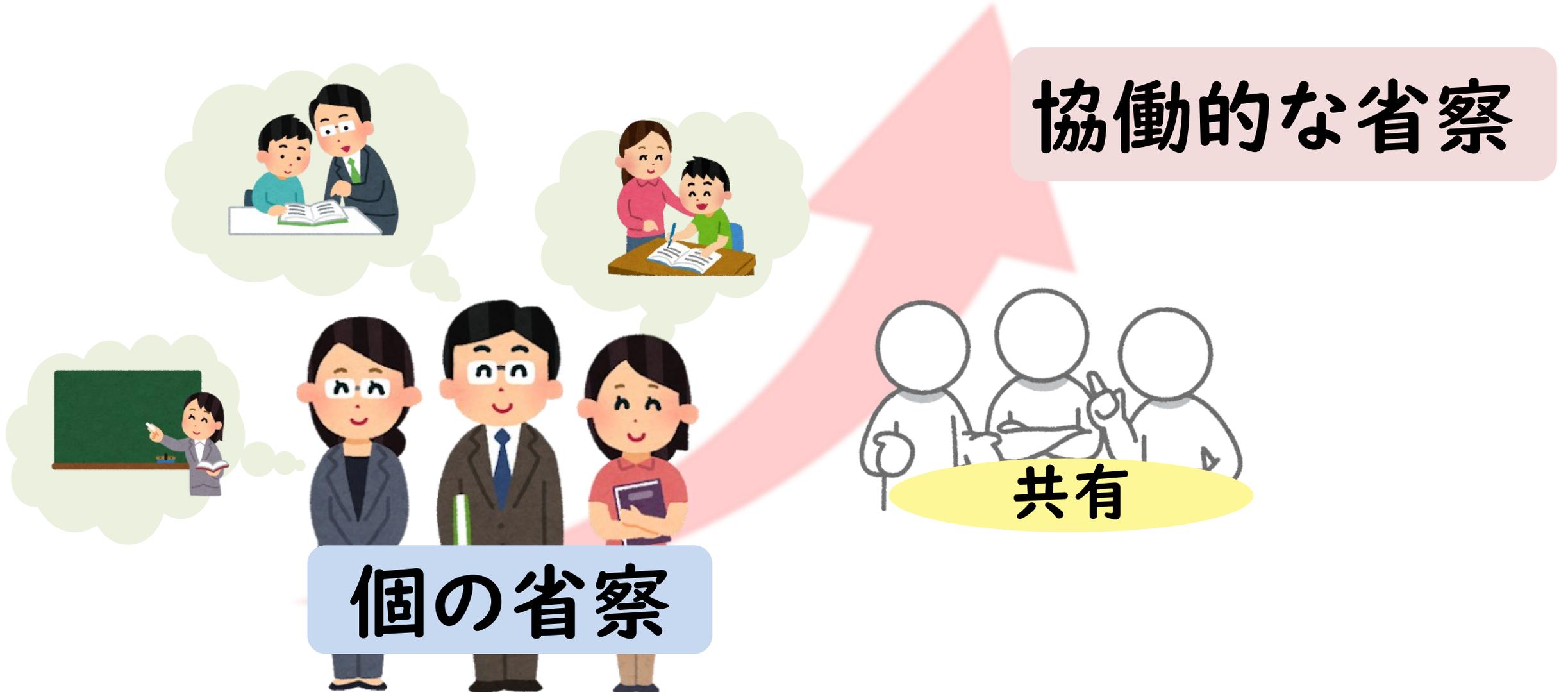
- ・研究授業に積極的
- ・授業を振り返る意識は高い
- ・管理職が日常的に教員を支え、安心して挑戦できる雰囲気



授業改善が個人にとどまる

- ・協議で多様な立場からの意見が十分に生かされにくい
- ・研究授業が個人の課題解決
- ・成果や課題が学校全体で共有・蓄積されにくい

主体的・協働的に授業改善を推進する体制づくり



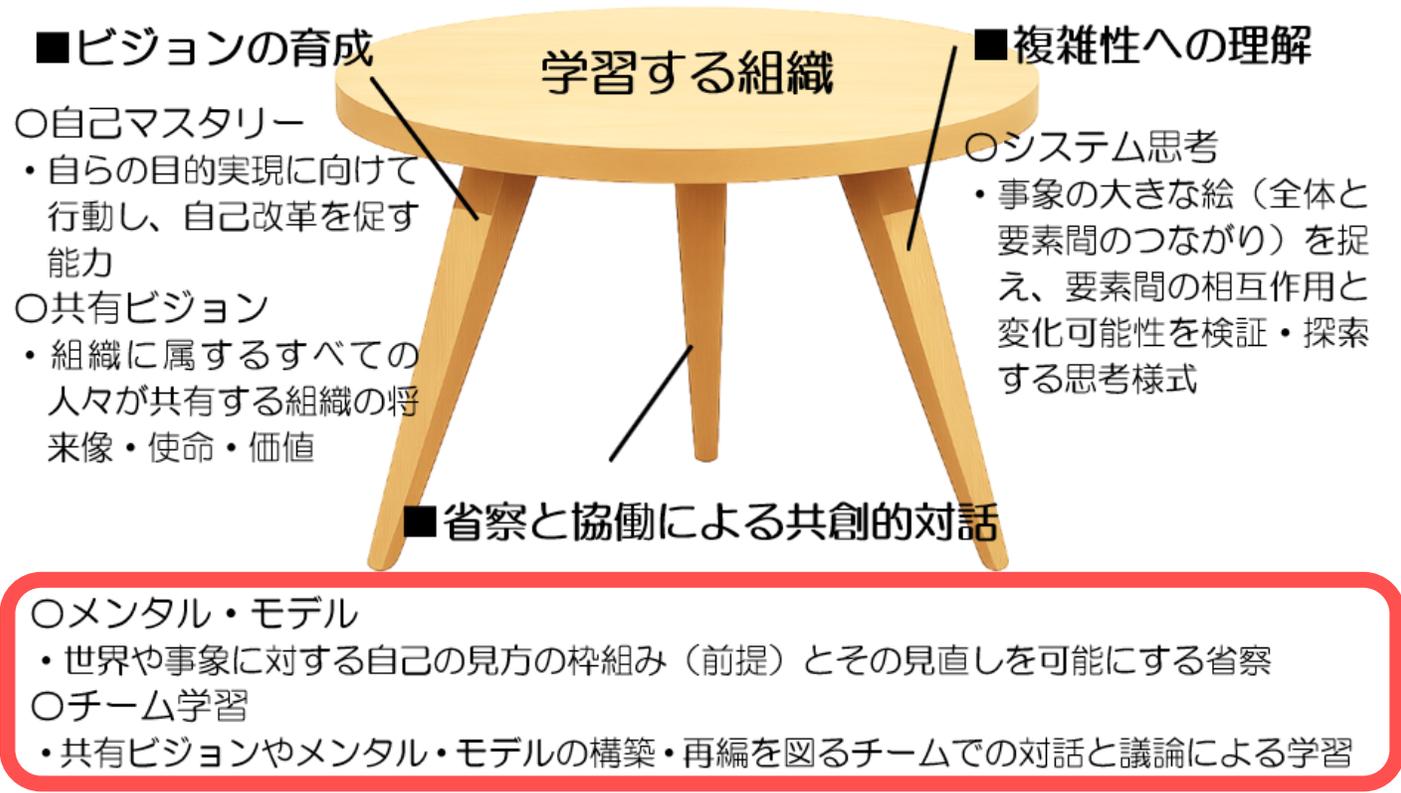
主体的・協働的な授業改善とは

教師が見童の学びの姿を根拠に自ら省察し、その気づきを他の教員と共有し、相互に省察を促しながら授業を再構成していくこと

文部科学省(平成30年):「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編」東洋館出版社p.4
木村優・岸野麻衣(2019):「授業研究 実践を変え、理論を革新する」新曜社p.13

P・M・センゲ「学習する組織」理論

- ✓ 自己マスタリー
- ✓ 共有ビジョン
- ✓ **メンタル・モデル**
- ✓ **チーム学習**
- ✓ システム思考

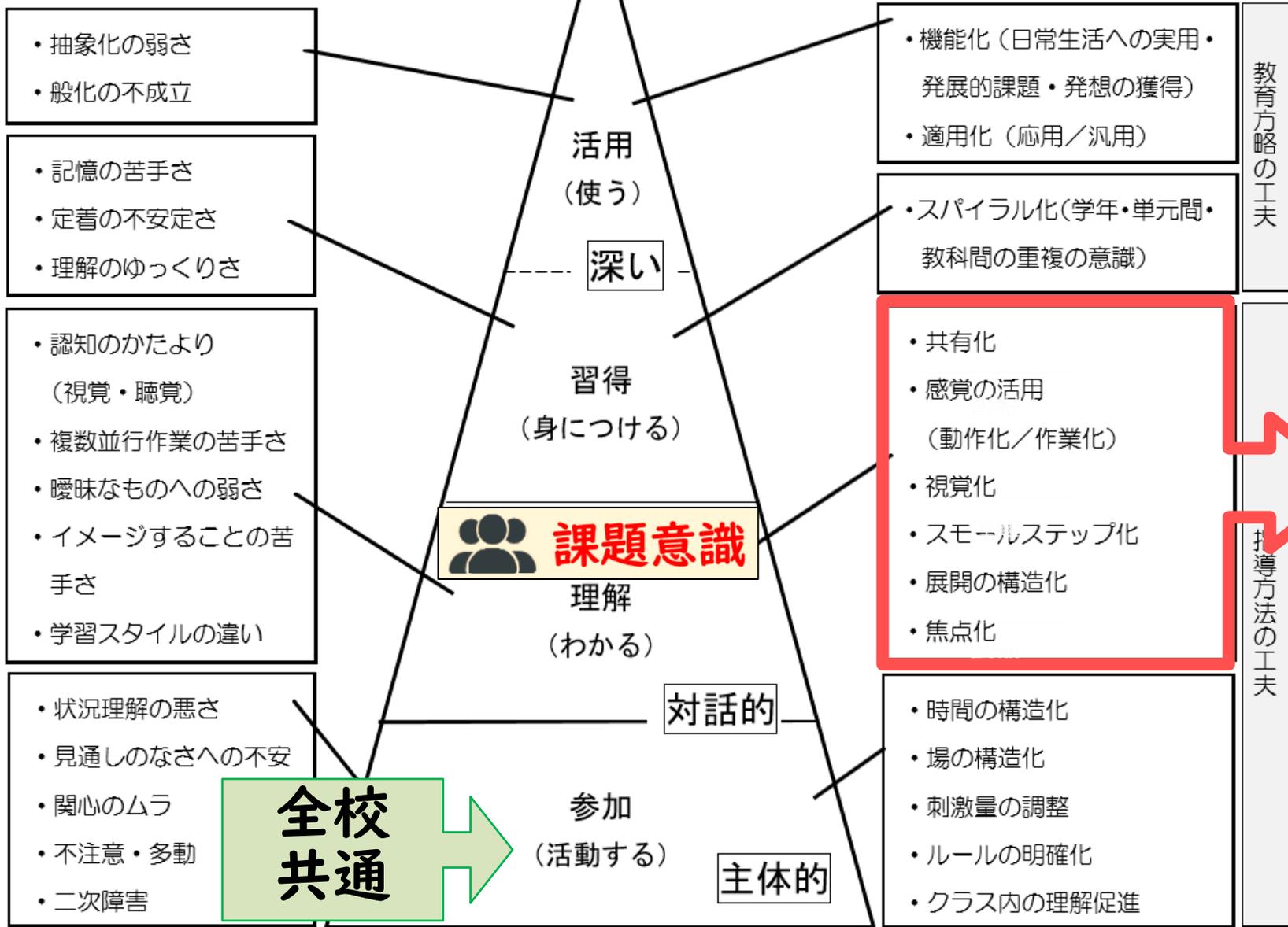


木村優・岸野麻衣(2019):「授業研究 実践を変え、理論を革新する」新曜社p.13

授業のUDモデル

授業でバリアを生じさせる
発達障害のある子の特長

授業でバリアを除く工夫



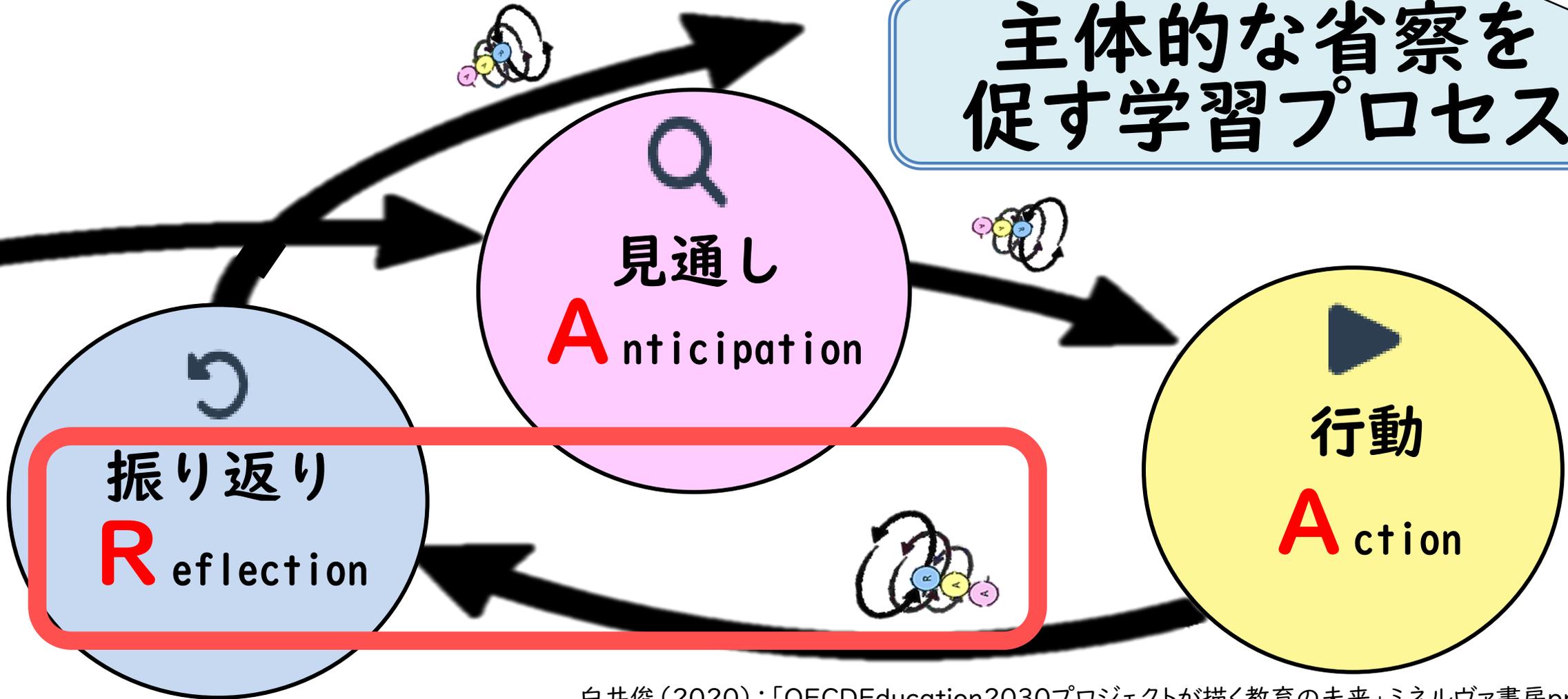
**授業UDの
課題別チーム学習**

小貫悟・石塚謙二(2018):「授業のユニバーサルデザイン vol.11」東洋館出版社pp.66-73

AARサイクルとは

前期研究成果

主体的な省察を
促す学習プロセス



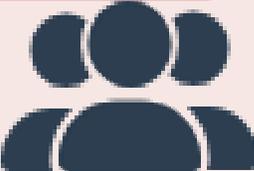
白井俊 (2020) : 「OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来」ミネルヴァ書房 pp.168-169

他の教員の気付きから協働的な省察を促し、授業を再構成する仕組みが必要

II 研究の基本的な考え方

マクロAARとマイクロAARの関連

協働的な省察を支える

マクロAAR 

授業改善を推進する「見直し、行動、振り返り」の学習プロセスに沿った一連のチーム学習の過程

- ・課題別チーム協議
- ・シェアタイム

個の省察を支える

マイクロAAR 

各教員が授業の実践を通して、個の省察を重ねる一連の過程

- ・授業UD記録シート
- ・学びレター

マクロAAR

ミクロAAR

シェアタイム

課題別チーム協議

A
見通し協議

協働的な省察

↑ ↓
個の省察

A

R
振り返り協議

授業UD記録シート
学びレター

視点を明確にした個の省察
を行い、振り返り協議につな
げる。

主体的・協働的に授業改善を推進する体制モデル

協働的な省察を支えるマクロAARの取組の具体

課題別チーム協議



見通し協議 **A**

- ・児童の学びの姿を根拠に次の授業で取り入れる手立てを検討

振り返り協議 **R**

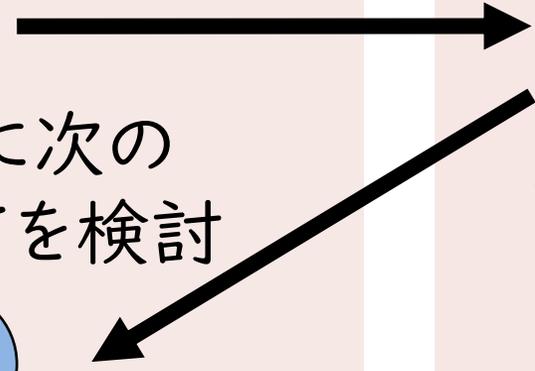
- ・シェアタイムの成果・課題を整理
- ・授業改善の方向性を検討

シェアタイム



短時間の授業公開 **A**

- ・自由参観
(チームメンバーは一人は参加)
- ・手立ての効果と児童の学びの姿の共有



個の省察を支えるマイクロAARの取組の具体

授業UD記録シート

【目的】

シェアタイムを振り返り、個の省察を支える。

【内容】

- ・児童の学びの姿を記入
- ・よかったところ／課題／次やってみたいことを整理

学びレター

【目的】

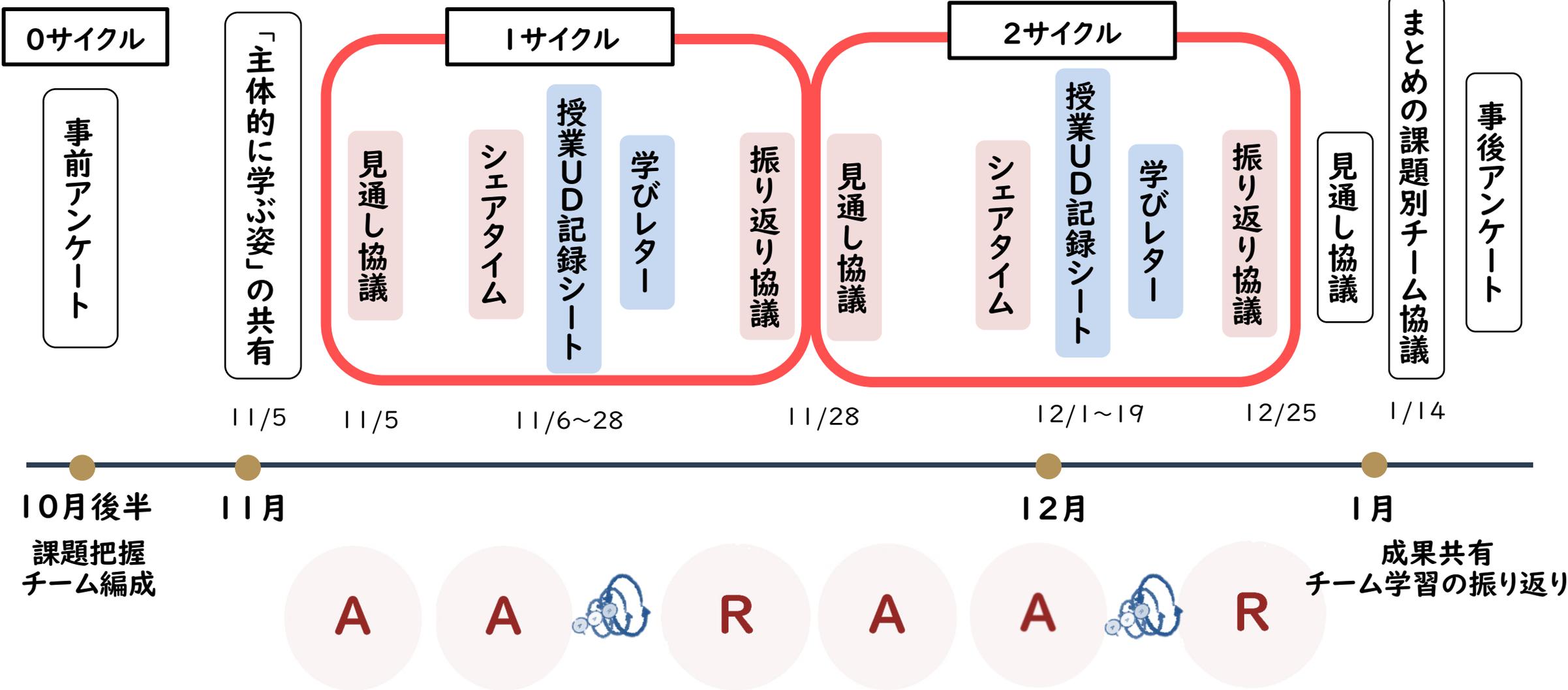
授業者と参観者の個の省察を支える。

【内容】

- ・児童の学びの姿や手立ての効果についての気づきを記入

II 研究の基本的な考え方

研究の全体スケジュール



取組の推進に向けて

1サイクル

校内連携

- ・管理職、研究主任、小中一貫教育推進コーディネーター、特別支援教育コーディネーターとの連携

2サイクル

環境整備

- ・チーム編成
- ・授業UDの関連書籍コーナー設置、管理
- ・シェアタイム日程共有の仕組みづくり
- ・フォーマット、ロードMAPの作成

助言・支援

- ・対話による状況把握
- ・授業UDに関する情報提供
- ・個別の助言

0 サイクル目

授業UDの課題の把握

- ・教員アンケートの実施

授業UDの手立ての活用場面や方法が分かりにくい。



授業UDの手立てを準備する時間を確保しにくい。

取組の体制づくり

- ・アンケート結果に基づいた課題別チームの編成
- ・3~4名で構成（学年・経験年数の異なる教員）
- ・管理職、研究主任、小中一貫教育推進コーディネーター、特別支援教育コーディネーターと連携して編成

Ⅲ 取組の実際

フォーマットとロードMAP作成

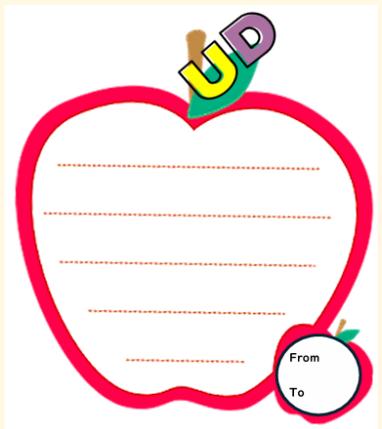
授業UD記録シート

- 一部プルダウン形式で入力を簡略化

月 (2タップ)	日 (2タップ)	授業者	学年	教科	単元名 ★直接入力
10	14		1年生	国語	オリジナルサラダをつくろう

学びレター

- 手紙形式の枠を設定
- 気づきを簡潔に記入



「あつまれUDの森(森プロ)」ロードMAP

～チャレンジをつなぐ!すべてが成果!～

授業者	参観者
<ul style="list-style-type: none"> 日程を決めてカレンダーに書く。 前日の職朝プリントに実施クラス、時間を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーや職朝プリントを確認して、参観できる日に、名前を記入し、参加する(短い時間でもOK)。 同じチームの参観者はUDの手立てを写真に残す。

カレンダー

シェアタイム

職朝プリント

記入例)【担当】→「森プロ」、
【連絡事項】→「5-1、9:35～からシェアタイムします。」
【入力先(パソコン)】
「共有(写真)」→「非暗号化」→「05 職員朝会プリント」に前日16:00までに入力。

授業者	参観者
<ul style="list-style-type: none"> 「UD記録シート」に入力し、授業を振り返る。 「学びレター」を受け取ったら、「学びの木」に「学びレター」をセロテープで貼って学びをみんなと共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影した画像を「UD記録シート」に入れる。 学びや、授業者が次の授業に生かせるアドバイスを「学びレター」に書く。 直接渡して、授業の感想と一緒に伝える。

「UD記録シート」の入力の仕方

「あれ?どうするんだっけ?」

(入力例)
ここをタブレットで読み取ってください!

「よし!UDを記録!」

(入力はコチラ!)

課題チームが分かるようにマークを!

具休物を操作させて視覚支援グッドでした! 次も使えそうだから使ったらいいかも! 私もやってみます! 森高

データの保存先	PC (単元計画、ワークシートなど)	タブレット (スライド、教材など)
	<p>「三坂地小学校共有」→「非暗号化」→「令和7年度」→「研究研修」→「UDグッズ」に視点ごとで保存 【保存名→ 5-1・社会・「米作り」】</p>	<p>「資料箱」→「学内(先生のみ)」→「令和7年度」→「02 研究研修」→「UDグッズ」に視点ごとで保存 【保存名→ 5-1・社会・「米作り」】</p>

Ⅲ 取組の実際 | サイクル目 「主体的に学ぶ姿」の共有～見通し協議



目指す三坂地っ子の主体的に学ぶ姿

興味・関心

- ・進んで発表したくなっている
- ・積極的に参加している

粘り強さ

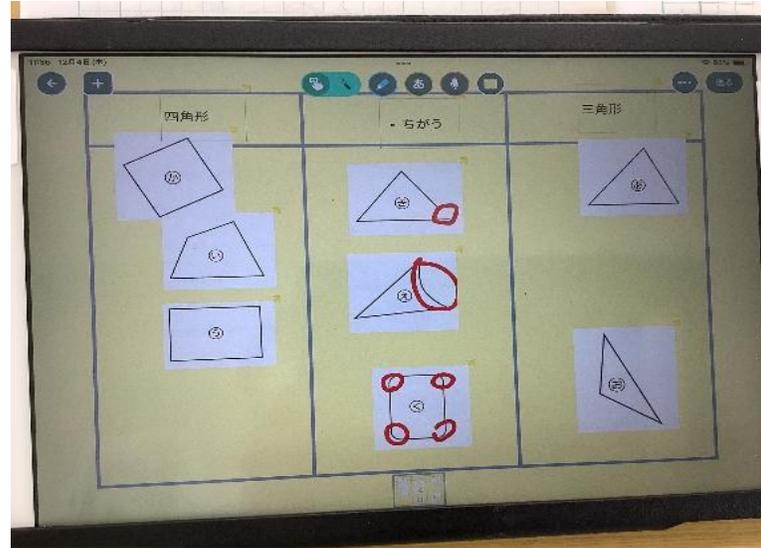
- ・次のめあてを考えている
- ・目標やゴールを意識して取り組んでいる

振り返り

- ・次もやりたい!という意欲が高まっている

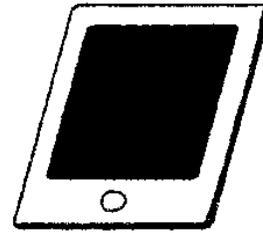
授業改善の方向性の共通理解

Ⅲ 取組の実際 シェアタイム～課題別チーム協議（振り返り・見通し）



シェアタイムの様子

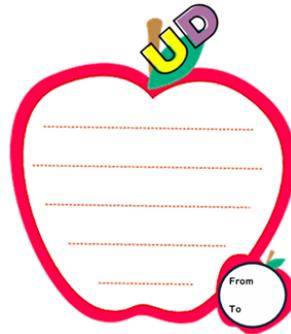
授業UD
記録シート



授業者



学びレター



参観者



課題別チーム協議の様子

支援

支援

支援

支援

0サイクル

事前アンケート

「主体的に学ぶ姿」の共有

11/5

1サイクル

見通し協議

シェアタイム

授業UD記録シート

学びレター

振り返り協議

11/5

11/6~28

11/28

2サイクル

見通し協議

シェアタイム

授業UD記録シート

学びレター

振り返り協議

12/1~19

12/25

見通し協議

まとめの課題別チーム協議

1/14

事後アンケート

10月後半

課題把握
チーム編成

11月

12月

1月

A

A



R

A

A



R

成果共有
チーム学習の振り返り

取組の推進に向けて（1サイクル目）

協議の場づくり

- ・協議の流れを提示
- ・協議内容の視点を明確化

森プロ 15:00~15:30 (30分)

チームでつなぐ

- ①シェアタイム **20分**
(ミニ公開授業)の
成果、改善点の共有
+
②次の授業者の教材
研究、サポートタイム

みんなでつなぐ

- 8分**
③各チームの取組の
共有



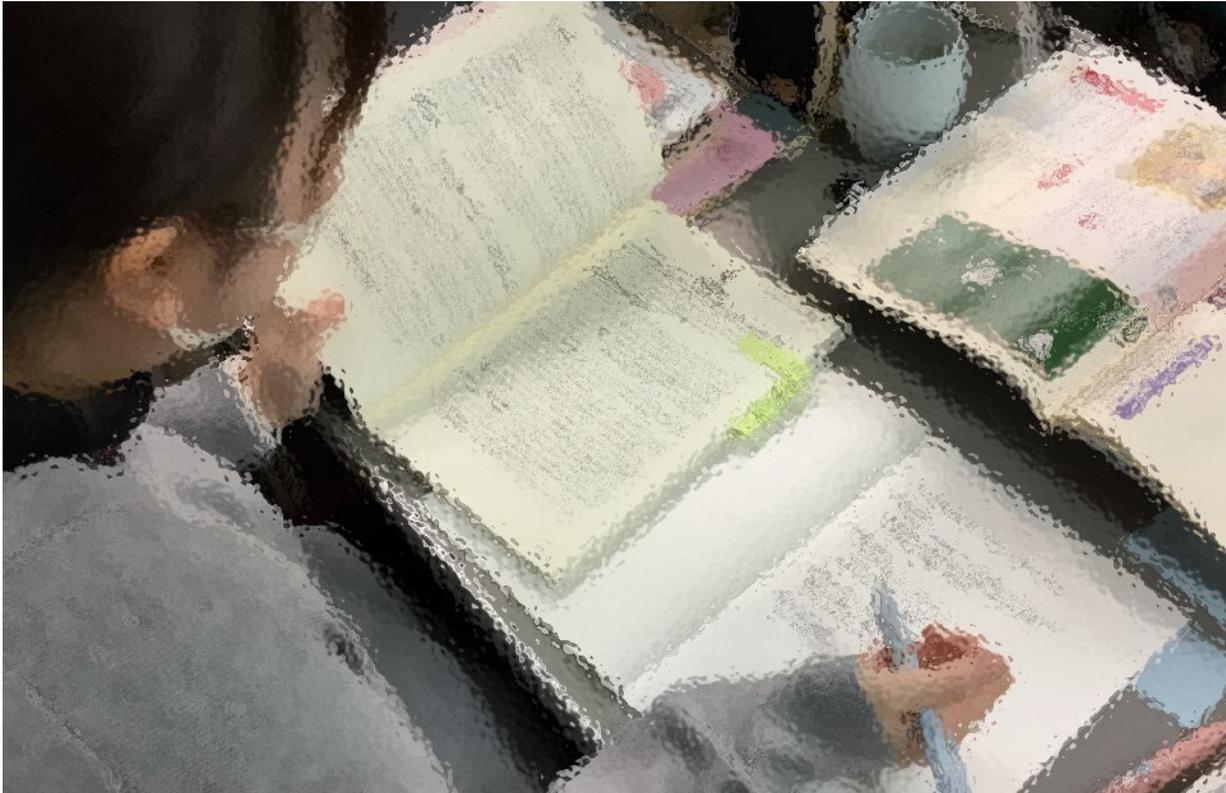
自走化支援

- ・取組初期は入力や手順を個別に支援
- ・手順を説明できる教員の拡大



取組の推進に向けて（2サイクル目）

国語科、算数科以外でのスモールステップってどんなものがありますか？



個別の支援

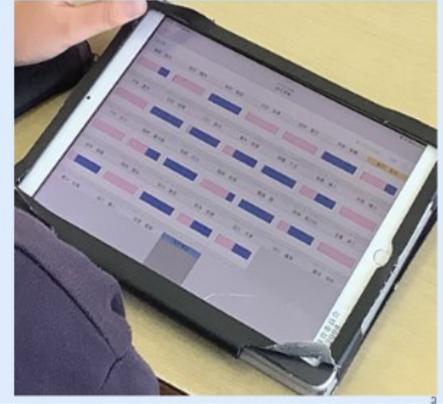
- ・他教科におけるスモールステップ化の具体例を提示
- ・関連資料を基に、授業UDの手立ての検討を支援

教員の学びを促す支援

- ・各チームの進捗状況を共有
- ・シェアタイム実践の紹介
- ・チームでの学びの共有

11月6日

道徳(焦点化・視覚化)



各チームのこれまでの気づき、課題、改善点

①焦点化

- ・考えさせたいことをしぼるには、**発問が大事**

②展開の構造化

- ・**板書、席、場**の構造化も含めてやっていく

③スモールステップ化

- ・一人一人に合ったスモールステップ、**長い期間**のスモールステップ(単元計画)

④視覚化

- ・ノートとの使い分け
- ・準備時間〇 **繰り返し使える**

⑤動作化

- ・**教具の使い方や、やり方の説明が欠かせない**

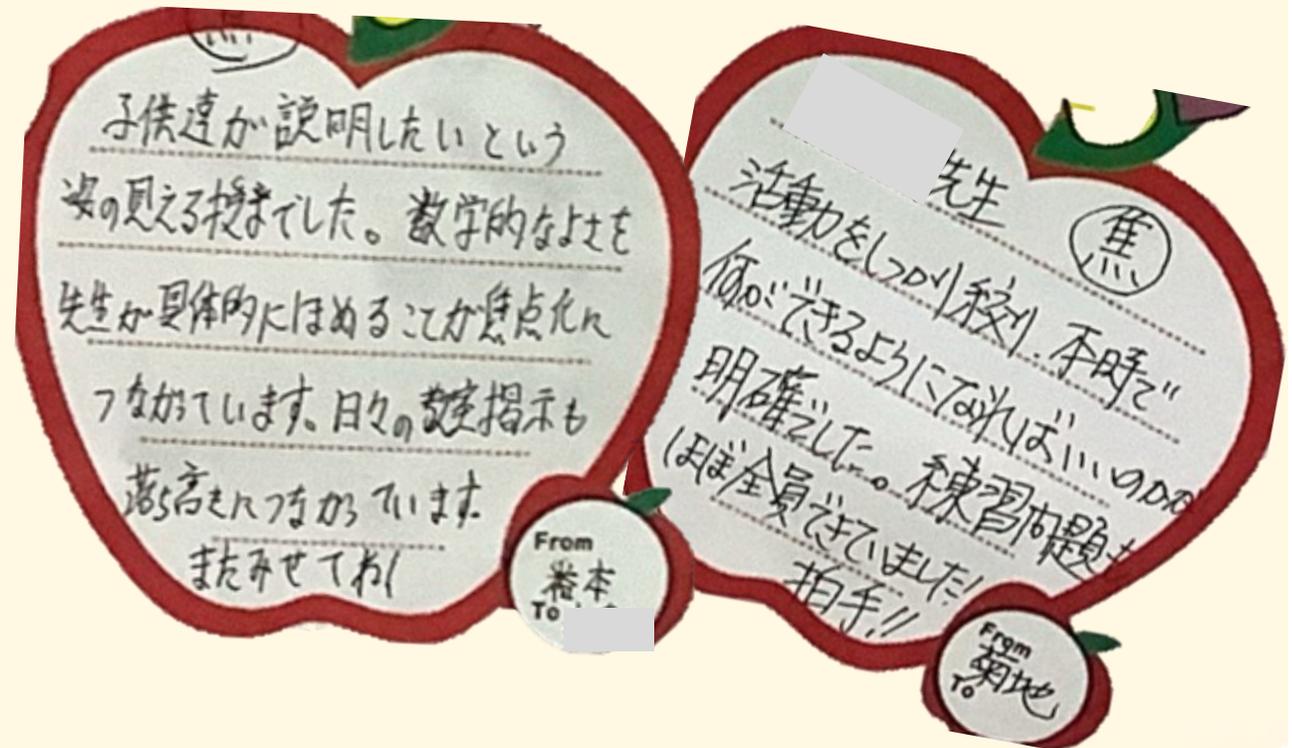
⑥共有化

- ・タブレットを活用して**対話を促す共有化**

取組を支える管理職の関わり

校内の雰囲気づくり

- ・1、2サイクルを通して取組に継続的に参加
- ・授業後の声掛けによる実践の価値付け



AARサイクルを活用した授業UDの課題別チーム学習が有効だったか。

分析の視点

- ① 個の省察の具体 (マイクロAAR) 
- ② 協働的な省察の変容 (マクロAAR)
- ③ ミクロAARとマクロAARの相互作用による授業の再構成

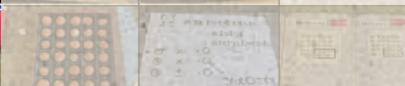
IV 取組の分析と考察 (視点①個の省察の具体)

授業UD記録シート

【結果】

・22回分の実践記録

・ほぼ全ての教員が記録

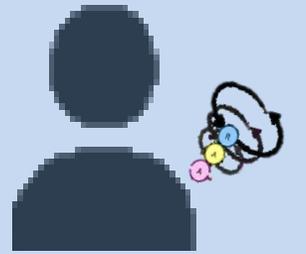
手立てのよかったこと (ここに直接入力)	課題 (ここに直接入力)	次やってみたいこと (改善点・見直し) ここに直接入力	授業写真
タブレットを操作して献立を考えさせたことで支援が必要な児童も難なく取り組むことができた。提出箱を用いて共有することで、他者の献立をみて自分の献立に対する考えを深めることができた。	短冊の色を変えて、視覚的に情報を分けることができた。提出箱を用いて共有することができたと思う。	個人思考の時間を確保し、立てる献立の種類を増やせるようにしたい。集団解決のときに自分の献立の根拠を示しながら説明する時間を取りたい。	
焦点化で、中心発問で児童が考える視点をしぼるために、中心発問に入る前の補助発問を工夫した。	補助発問の答えがいくつか出てきたときに、さらに切り返し発問として「この中で1番はどれだと思う?」と問えばよかった。ここで視点をしっかりと抑えておくことで、中心発問を通して児童が考えるときに、視点がふれにくくなると思った。本時では抑えが足りなかった。	いろいろなパターンで切り返し発問を考えておき、考える視点を焦点化していけるようにしていく。	
形(三角形)の動きを、言葉にしながら実際に試してみることで理解が深まった。言葉もふだん使っている言葉から算数用語に導いていったので、実感を伴って理解できていた。	色紙をワークシートに貼る作業に時間を取られて実際の動作化の時間が短くなってしまった。算数教材としては残念だったが、糊をつけて貼るといった作業を自立活動と捉えているので、3回同じ作業をしてだんだん早く貼ることができるようになったのは成果と考えられる。	算数教材だけで考えるとしたら、はじめから動かさない色紙は貼っておくと、時間短縮になると同時に、どの色紙を動かせばよいか分りやすく、作業に取りかかることができるのではないかとと思う。	
意味をイメージできないものもあるが、画像で見ると、想像しやすく。子どもたちも楽しそう。今回のめあてでもある、熟語の意味を考えてその熟語を使った文を考えることができた。スライドを使用することで、スムーズに進む。	準備に時間がかかる。ノートにまとめること(重要など)を意識していかないと、スライドだけで楽しめてしまう。スムーズに進むのは良いが、理解出来ているのか。教科書の文を読む力は付けられているのか。	大家と風車以外にも画像を挿入して、提示するより理解が深まったのではないかとと思う。また、子どもたちが意味を調べて文を作る活動では、熟語の意味を覚えられるような、問題をいくつか準備しておくとも無駄にならずに多くの問題を練習できると感じた。	
スモールステップとして、10倍20倍12倍などの4つの問題を一度に提示せずに1問ずつだった。初めの問題は、間違った説明をしていたが、2つ目の問題で、正しい説明ができた。	今回の授業は、交流が教師相手だけだったため児童が話している内容が理解できたが、児童同士の対話だと、内容を理解することが難しいだろうと感じた。共有するときも、手立てが必要だと思う。	この手立てを複数人、複数学年いるときでも有効かを確かめたい。	
スモールステップとして、①教科にはないがあるか②その中で1番好きな教科は何か③あなた自身が好きなものを時々アワークをしながら行うことで、自分の好きな教科とその理由についてしっかりと考えることができた。1問ずつ提示した。	タブレットに文字を打つことに時間がかかる児童がいる。カタカナで表記するなどの変換がまだできないので、すべてひらがなになってしまおう。話を聞くと、活動するときのメリハリがつかないことがあった。	1番好きな教科とその理由を考えさせたが、次は好きな教科を複数選択させてみたい。ペアでの話し合いはスムーズにできるようになってきているので、グループでの話し合いの時の声の大きさや、全体の場で話すときの声の大きさ、速さについて意識させたい。	
グループごとにワークシートを掲示しておくことで、活動中も全体で活動内容を確認することができた。ワークシートには「どんなおもちゃにしたいか」「ためたいくふう」「くふうして分かったこと」でまとめさせた。	活動中ワークシートを見に行くことが少なくせつかつまとめたものを活用する時間が少なかった。また、全体共有や振り返りを行う際に手元にワークシートがなくやりにくい場面があった。	活動の後にワークシートを見る時間をとるようにし、ワークシートに書いたことをグループで共有できるようにする。また、ワークシートを見てうまくいったことを全体で共有するようにし、本時のまとめへとつなげるようにする。	
提出箱を共有し、グループごとにポスターのアドバイスタイムを行った。共有する前に、何について話すかを提示してからグループ活動に入ったことで、単なる共有ではなく視点を沿った話し合いにすることができた。	提出箱での共有だったので、自分の班のメンバーのポスターを探するのに時間がかかったり、修正したものを再度送ってもらったりという手間があった。共有ノートでの交流ができたよかった。	共有ノートを作成してグループ活動をやってみたい。話し合いの中でアドバイスをしたり修正したりできたらもっと有効な共有化になると思う。	
焦点化で、本時のめあて(十の位に繰り上がりがある筆算ができる)を達成できるように確的に発問をしたり、板書に書いたりして工夫した。	十の位に繰り上がりがあるときには、百の位に繰り上げた数を書くようにまとめたが、整合性があつたか。また、先生達の話し合いから、繰り上がりの書く位置が全校で統一できればよいと感じた。	黒板に色分けだけでなく、カードや短冊など用意し、単元を通して使えるようにする。	
タブレットを活用することで、違うところを書き込むことができるし、友達の見え方を聞いて変更することができたこと。	タブレットに学習のあとを残すとノートに書けないので、どのように使い分けたいかが課題だと思う。	タブレットとノートの使い方を工夫したい。	
導入で、生活場面と関連させた課題を提示することで児童の興味、関心、解決したいという意欲付けを図ることになった。自力解決の際に、まとまりに着目させるために、色分けしたマグネットに数字を挿入して示した。	活用の仕方が児童に理解できていなかった。課題解決にはいるまえに、1つを例に挙げながら説明をすればよかった。	その時間のために、特別に準備するのではなく、身近にある物でいろいろな問題解決に活用できるものをストックしておけば便利である。	
物を数えたり、声に出して文字を書いたりすることで、自分が今何をしているのかを児童自身がつかめていた。	教材作成に時間がかかる。児童の実態をしっかりと把握していないと効果がない。	身近にある物を工夫する。	

IV 取組の分析と考察（視点①個の省察の具体）

授業UD記録シート of 具体：教員Aの事例

手立てのよかったところ	課題	次やってみたいこと（改善点・見通し）
<p><u>自分の考えをもつことが難しい児童がいたので、数値を用いて考えを視覚的に考えることができるようにICTを活用した。その結果、それぞれの児童が自分の考えをもち、友だちと交流することができた。</u></p>	<p>タブレット、ワークシート、友だちとの交流と<u>活動が多かった。</u></p>	<p>必要な<u>活動を吟味したい。</u>たくさんの考えが出ていたので、<u>板書を構造的につくることで、子供たちの思考を整理したい。</u></p>

児童の学びの姿を
根拠にした個の省察



学びレター

【結果】

- ・42枚の学びレター
- ・気付きの整理
- ・手渡す姿
- ・授業に関する対話



IV 取組の分析と考察（視点①個の省察の具体）

学びレターによる個の省察の具体：教員A、教員Bの事例

教員A

問題場面をイメージしやすいのは
視覚支援、式かたてにくる時は
一稿に考えるというように児童の
実態に応じて支援をさねて
勉強になりました!!

教員B

どんな教材か、あつのか
出した後、自分の考えもあや
かた。タブレットでうつのも難
しくなそうだったの、書くのか
苦手な子の支援になりたい

児童の学びの姿を根拠にした個の省察



IV 取組の分析と考察 (視点②協働的な省察の変容: 課題別チーム協議 11/28)

振り返り協議

教員A



シェアタイム
1年・国語「すきな
きょうかをはなそう」

話型を提示することで、自分の好きな教科とその理由についてしっかり考えられていた。

タブレットで話型に文字入力する作業で戸惑っている児童がいた。

教員B



国語科での話型の提示は、書くことが苦手な児童に効果的。

見通し協議

教員B: 文字入力が難しかったら手書きでもいいね。話型を色分けしたら書くことが分かりやすくなるかも。

教員A: 次の「書くこと」の単元でも今回使ったような話型を生かして使ってみます。

個の省察に基づいた協働的な省察

IV 取組の分析と考察 (視点②協働的な省察の変容: 課題別チーム協議 12/25)

振り返り協議

教員C



シェアタイム
4年・算数
「小数のわり算」

わり算の手順を一つずつ確認しながら進むことで、わり算の仕方が定着した。

たくさん問題があると取りかかれない児童もいる。大きなステップで行きたい児童もいる。

教員A・B



いっぱい手立てがあり「できた」と思っている子が多かった。

一つ一つの丁寧な指導がスモールステップだと思います。

見通し協議



教員A: 図工、国語でも考えをもちにくい児童には、複数の案を提示する。

教員B: 単元を通してスモールステップを取り入れていくことも必要。

教員C: 学習の導入で継続的に既習事項の確認を行う。

他教科

継続的

単元全体

協働的な省察の広がり

IV 取組の分析と考察 (視点②協働的な省察の変容: 課題別チーム協議 1/14)

成果

達成感がもてていた。

児童は安心感をもって学習に取り組めた。

児童も進んで取り組みやすくなった。

本当に児童に力が身に付いているのか検証が必要。

課題

児童一人一人に合わせた「できる」を見付けることが難しい。

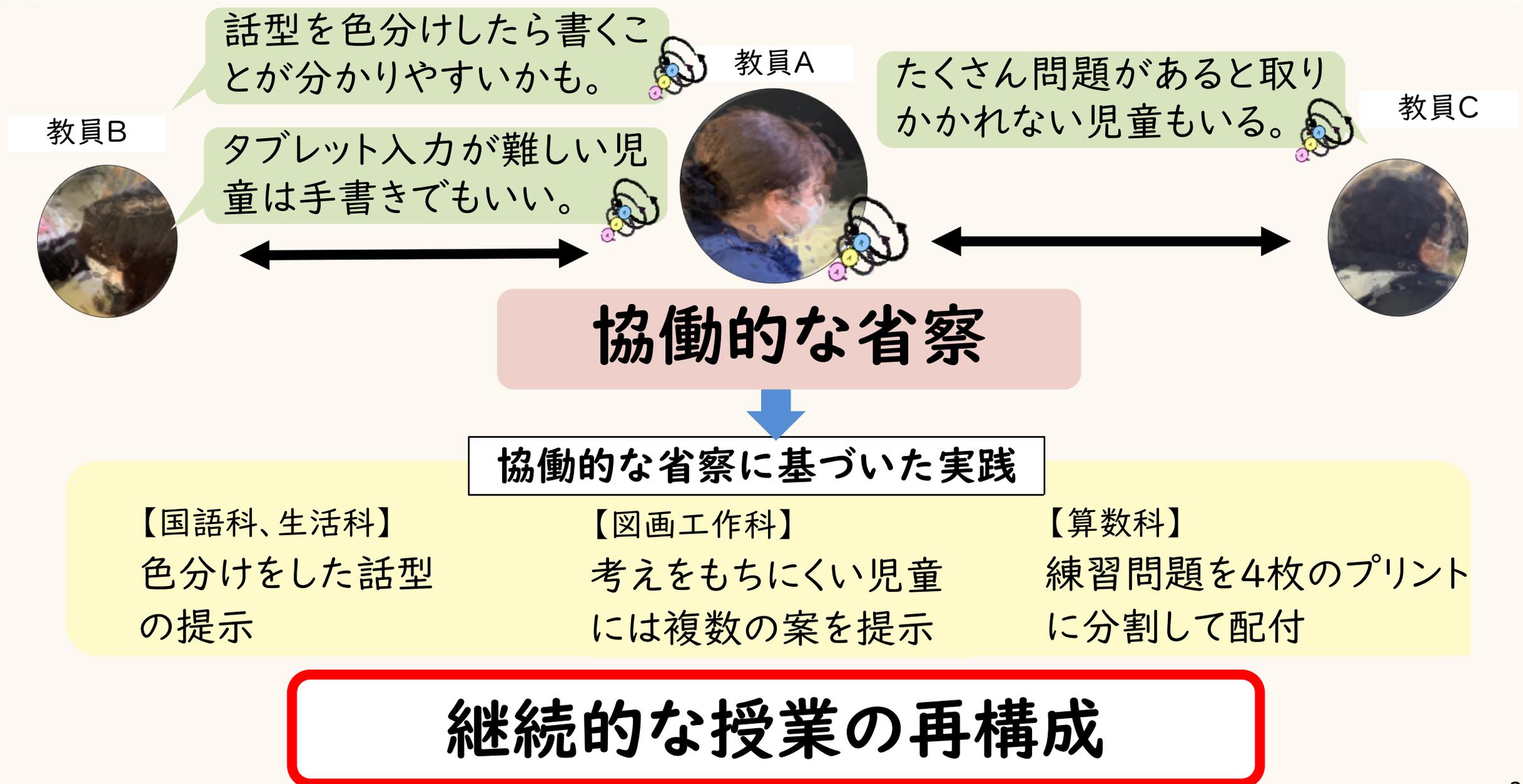
授業UDに依存し、手立てがない場面、今後困る可能性がある。

授業UDに欠かせないこと

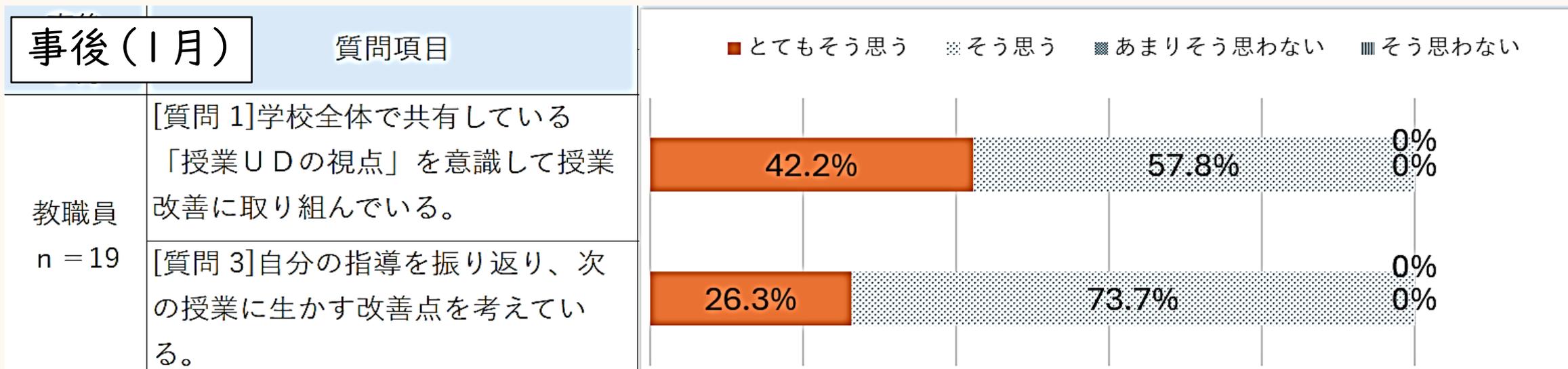
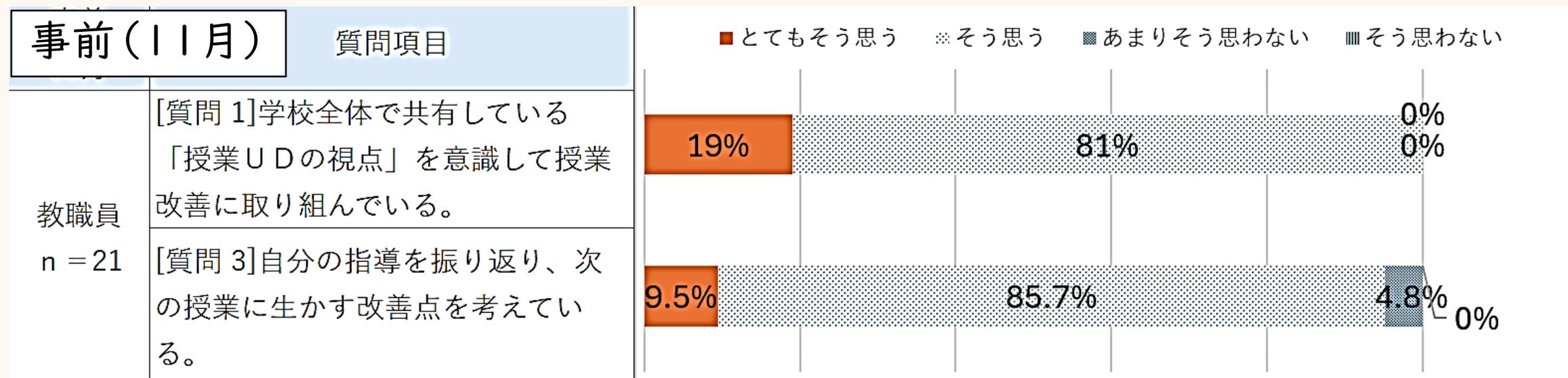
- ・できることを増やすことも大切だが、手厚すぎても児童の意欲を引き出せない。
- ・次年度以降の姿をイメージすると、自分で選択する力を身に付けさせることも大事。
- ・単元を通してスモールステップの手立てを考える。
- ・児童の姿をよく観察し、必要な手立てを教師が取り入れる。

協働的な省察の質の高まり

IV 取組の分析と考察 (視点③マイクロAARとマクロAARの相互作用による授業の再構成)



IV 取組の分析と考察（視点③マイクロAARとマクロAARの相互作用による授業の再構成）



課題別チーム学習に関して

- ・ 1人では出ないアイデアが出ること。複数の目で振り返りをすることによって、次により繋がる実践になったこと。
- ・ 参観することで、他学年の授業実態がわかり、指導や支援の仕方が参考になりました。
- ・ 誰かと相談する時間はとても充実していた。わざわざ設定してもらわなかったら、学年の先生以外と授業について話すことがほとんどなかったので、いい時間になった。

研究の成果と課題・今後の展望



成果

- ・AARサイクルを活用した課題別チーム学習は、主体的・協働的な授業改善を推進する体制づくりに有効



課題

- ・実践を共有・活用する機会が不十分
- ・取組に参加する仕組みの構築が不十分



今後の展望

- ・共有ビジョンの明確化
- ・実践を基にした協働的な省察の充実
- ・全ての教員が継続的に実践を共有・活用できる仕組みや環境の整備

ミドルリーダーとしての学び



主な参考文献

- ・文部科学省（令和6年）：「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」
- ・中央教育審議会（令和4年）：「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教員集団の形成～（答申）」
- ・白井俊（2020）：「OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来－エージェンシー、資質・能力とカリキュラム－」ミネルヴァ書房
- ・小貫悟・石塚謙二（2018）：「授業のユニバーサルデザイン vol.11 「深い学び」を目指す授業UD 学びの過程における困難さへの対応」東洋館出版社
- ・ピーター・M・センゲ（2011）：「学習する組織 システム思考で未来を創造する」英治出版
- ・木村優・岸野麻衣（2019）：「授業研究 実践を変え、理論を革新する」新曜社